

今週（12月5日から12月9日）の短期金融市場動向

●インターバンク市場

今週のインターバンク市場は、引き続き大手行の資金調達ニーズが弱い中、先週末2日の税揚げ日以降は地銀の調達ニーズが底堅く見られた。また、複数の地銀業態からの試し取りも散見され、0.001%の出会いなども見られた。週間の日銀当座預金残高は特段大きな変動もなく、310兆円程度で推移した。無担保コールO/N加重平均レートは概ね▲0.05%台と横ばい圏で推移した。出合いは▲0.085～▲0.02%と幅広く、週末は若干取り上がる動きも見られた。無担保コール残高は6兆円台前半で推移した。ターム物に関しては月内のショートタームで▲0.03～▲0.015%、期末越えの▲0.01～0.00%近辺の出合いが見られた。

固定金利方式の共通担保資金共通オペは8日に2W・8,000億円がオファーされ、結果は1,950億円（期落ち額2,851億円）で札割れとなった。

9日には「日本銀行当座預金のマクロ加算残高にかかる基準比率の見直しについて」が公表され、2016年12月から2017年2月の積み期間の基準比率を13.0%とすることが決定された。政策金利残高（金融機関間で裁定取引が行われたと仮定した金額）の見直しについては、「平均して概ね10兆円台となる見込み」と記載されていた。基準比率はほぼ市場予想通りの印象であった。

●レポ市場

今週のGC O/N物は▲0.095～▲0.085%程度の水準で推移した。5日から7日のS/Nは概ね▲0.095～▲0.09%の出合い。T/N段階では投資家の調整売りから▲0.085%での出合いも見受けられた。8日のS/Nは短国3M物、6M物の発行要因から若干レートを上げて▲0.085%近辺での出合い。9日のS/Nは短国買入オペ等の要因で若干レートを切り下げ、▲0.095%が出合いの中心となった。

個別のSC銘柄では2Y368～370、5Y127～129、10Y336～344、20Y156～158、30Y49～52などカレント近辺の銘柄にビッドの出入りが多く見られている。

●短国市場

今週の短国市場は、海外勢の購入需要、期末の担保需要の強まりから、需給が締まり、全般的に強含む展開となった。

新発の入札は、7日に6M物、8日に3M物の入札が実施された。6M物の入札は、平均落札利回▲0.3603%、按分落札利回▲0.3523%と、マーケット全体の品薄感を反映した堅調な結果となった。セカンダリーは、▲0.385～▲0.375%で推移した。3M物は、WI取引において▲0.40～▲0.39%が出合う中、平均落札利回▲0.4032%、按分落札利回▲0.3903%と海外需要からか、過去最低を大幅に更新するかなり強い結果となった。その後は、3Mが▲0.45～▲0.42%、6Mが▲0.385～▲0.36%で出合った。

9日には、短国買入オペが1兆2,500億円でオファーされた。オファー額は、前回比7,500億円の増額となったものの、事前の市場予想よりは少なく、応札額3兆8,719億円、平均利回較差+0.031% 按分利回較差+0.030%と甘い結果となった。新発の3M物や6M物、既発の2～3M物が応札され、応札額が4兆円近くまで膨らんだものと考えられる。

●CP市場

今週のCP市場は、鉄鋼、機械、建設、卸売等複数業態でまとまった額の調達が行われ、償還総額5,500億円程度に対し、発行総額6,300億円弱と、発行超のマーケットとなった。

引続き0%以上での運用ニーズは底堅く、発行レートは、大口ロットの発行案件も含め、大部分が0%近辺で決着した。年越物ではオペ睨みの買いも強く、マイナス圏での決着も散見された。

6日にはCP等買入オペが、前回比1,000億増額のオファー額4,500億円で実施された。11月末に発行量が膨らんだこともあり、応札額は1兆366億円と、前月中(5,000億～6,000億円程度)から増加する形となったが、平均落札利回▲0.002%、按分落札利回▲0.004%と、按分は前回比横ばい、平均は若干低下する結果となった。年末のオペにかけての金利低下期待もあり、高い水準で売り急ぐ動きは限定的だったと見られる。

●短期金融市場関連指標

	日経平均（円）	新発10年物 国債利回り（%）	為替 （ドル/円中心相場）	無担保コールO/N （加重平均・%）	東京レポレート（翌日 物・T+1スタート・%）	日銀当座預金残高 （億円）
12/5（月）	18,274.99	0.025	113.80	△ 0.052	△ 0.092	3,098,400
12/6（火）	18,360.54	0.045	113.68	△ 0.054	△ 0.092	3,115,700
12/7（水）	18,496.69	0.030	114.25	△ 0.056	△ 0.092	3,119,300
12/8（木）	18,765.47	0.040	113.40	△ 0.053	△ 0.092	3,113,800
12/9（金）	18,996.37	0.050	114.45	△ 0.050	△ 0.091	3,125,500

来週（12月12日から12月16日）の短期金融市場動向

●経済カレンダー

	国内主要経済指標	国債等入札予定			海外主要経済指標
12/12 (月)	10月の機械受注統計(内閣府 8:50) 11月の企業物価指数(日銀 8:50) 10月の第3次産業活動指数(経済産業省 13:30)				11月の米財政収支
12/13 (火)	10月のマネタリーサーベイ(日銀 8:50)	TB2M 発行中止	5Y 24,000億円 12/20発行		米FOMC(1日目) 11月の英消費者物価指数
12/14 (水)	12月調査の日銀短観(概要及び要旨,日銀 8:50)	交付税借入 10,500億円 12/22借入			米FOMC(2日目) FRB 米経済見通し発表 11月の米生産者物価指数 11月の米小売売上高 11月の米鉱工業生産・設備稼働率 10月の米企業在庫
12/15 (木)	10月の石油等消費動態統計(経済産業省 13:30)	TB3M 44,000億円 12/19発行	20Y 11,000億円 12/20発行		英中銀MPC結果発表 11月の米消費者物価指数
12/16 (金)		TB1Y 25,000億円 12/20発行			11月の米住宅着工件数 11月のユーロ圏消費者物価指数改定値

●資金需給予想

単位：億円	銀行券要因	財政等要因	資金過不足	オペ種類	期日分	新規実行分	オペ合計	実質過不足	需給要因
12/12 (月)	▲ 800	▲ 28,100	▲ 28,900	全店共通 CP買入 ETF買入 国債補完	▲ 2,900	2,000 ▲ 400 300 100	▲ 900	▲ 29,800	TB3M発行▲44000償還41100 TB6M発行▲35000償還12400 物価連動10Y償還▲1000
12/13 (火)	▲ 1,000	▲ 2,000	▲ 3,000	国債買入 短国買入		11,200 12,500	23,700	20,700	
12/14 (水)	▲ 2,000	26,000	24,000				0	24,000	医療保険関係の支払 源泉税揚げ
12/15 (木)	▲ 3,000	57,000	54,000	貸出増加	▲ 9,600		▲ 9,600	44,400	年金定時払い TB2M発行中止 2Y発行▲23000償還12700 個人向け3・5・10Y発行▲1900 個人向け3Y償還300
12/16 (金)	▲ 3,000	2,000	▲ 1,000	CP買入	4,500		4,500	3,500	交付税借入▲10500期日10500
週 間 合 計	▲ 9,800	54,900	45,100	—	▲ 7,600	25,300	17,700	62,800	

12/12は日銀予想、12/13以降は当社予想

●短期金融市場の見通し

来週の資金需給は12日がTB3M発行超過、TB6M発行超過による資金不足日となる。また、14日は医療保険関係の支払、15日は年金払いによる大幅余剰日となる。インターバンク市場は、積み最終日を迎えて一部では取り上がる動きも見られると想定されるが、無担保コールO/N加重平均レートは▲0.05%台での推移が続くと予想される。

短国市場は、15日に3M物の入札、16日に1Y物の入札が実施予定となっている。短国買入オペは16日に短国入札が重なっていることから、19日に実施されると見込まれる。

CP市場は13日にCP等買入オペの実施が予定されている。6日のオペは応札額が膨らんだにも関わらず、平均レートが若干低下したこともあり、結果に注目が集まる。

主要なイベントとしては、国内では14日の日銀短観、国外では13～14日にFOMC、15日はMPCが予定されている。

●本資料は信頼できると思われる各種データに基づいて作成されておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
●本資料は何らかの取引を誘引することを目的としたものではありません。売買に関する最終判断はお客様ご自身でなされますようお願い申し上げます。
●金融商品のお取引には価格変動等によるリスクがあります。金融商品のお取引には手数料等をご負担頂くものがあります。金融商品取引法に基づきお渡しする書面や目論見書をよくお読みください。